

総務部

国立科学博物館において倉紡記念館の紹介展示を行いました

国立科学博物館では、全国の産業系博物館が所蔵・展示する資料を横断的に検索できる「HINET（産業技術史資料共通データベース）」を公開しています。

HINETに登録している博物館の活動を広く紹介する取り組みとして、毎年「HINETミニ企画展」を開催しています。

2026年の第13回HINETミニ企画展では、「創業の想いを引き継ぎ、得意な分野で社会を支える―日本の産業技術―」をテーマに、全国173館（2026年1月20日時点）の中から4つの博物館が選ばれました。

その1つとして倉紡記念館が選定され、1月27日から2月23日まで（2月2日、9日は休館日）の26日間、国立科学博物館（東京都台東区・上野）にて展示が行われました。

展示構成

本企画展は「壁面パネル」と「展示ケース内の展示物」の2種類で構成しました。

【壁面パネル】

壁面パネルでは、倉紡記念館が1888年創業時の倉敷本社工場の原綿倉庫を活用している建物であることや、明治期の面影を残す趣ある空間の中で、クラボウ138年の歩みを実物資料とともに見学できる点を紹介しました。

また、創業者・大原孝四郎が「同心戮力」を社是に掲げ、社内の和と団結を第一としたことや、第2代社長・大原孫三郎が「労働理想主義」のもと、労働環境を科学的に分析し改善した



▲ 会場の様子

取り組み、地域社会へ幅広く貢献したことを取り上げました。

これらの「人を大切にし、地域社会に根ざした企業活動」は、現代のSDGsに通じるものであり、持続可能な社会の構築に向けた先進的な取り組みとして、近年高く評価されている点も紹介しました。

さらに、繊維を原点に多角化してきた事業展開と、全ての事業は「人と社会を大切にすること」いう理念に根ざしていることについても紹介しました。

【展示物（展示ケース内）】

展示物としては、倉紡記念館の第5室で展示している「大正時代のリクルート映像」を設置しました。この映像は、当時のクラボウ映画部が、主に大正時



▲ 壁面パネルと展示物（写真提供：国立科学博物館）

大正時代の
リクルート
映像



代に撮影した貴重なフィルムを編集したもので、倉敷の街並み、工場の様子、働く従業員の姿などが映し出されています。

映像の後半には、女子従業員を募集するためのプロモーション映像もあり、主人公の女性が工場で働きながら充実した生活を送り、貯金をして円満退社し帰郷するまでの物語が描かれています。約7分のナレーション付きで、当時の時代背景を身近に感じることができます。

なお会場内では音声を流すことができないため、来館者が自身のスマホで視聴できるよう、QRコードを読み取る方式で展示しました。

展示を終えて

国立科学博物館 上野本館は、年間240万人以上が来館する、日本を代表する科学・技術の発信拠点です。そのような場所で、倉紡記念館およびクラブウの歴史や理念を発信できたことは、大変意義深い機会となりました。

また、本展示を見学した社員にとっても、自社の原点を見つめ直し、その想いを次の世代へどのように引き継いでいくかを考えるきっかけになればと願っています。

(コーポレート

コミュニケーション課

吉田 雅也 記



(写真提供：国立科学博物館)